

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

<b>事業名</b> 一般国道46号 盛岡西バイパス	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 東北地方整備局
<b>起終点</b> 自：岩手県盛岡市永井第一地割字高屋 至：岩手県盛岡市上厨川字前湯			<b>延長</b>	7.8 km
<b>事業概要</b> 一般国道46号は、岩手県盛岡市から秋田県秋田市に至る延長107.2 kmの主要な幹線道路である。盛岡西バイパスは盛岡市永井第一地割字高屋から盛岡市上厨川字前湯に至る延長7.8 kmの4車線（一部6車線）道路である。				
S59年度事業化 (H14年度事業延伸)		S59年度都市計画決定 (H21年度変更)		S61年度用地着手
				S62年度工事着手
<b>全体事業費</b>		430億円		<b>事業進捗率</b> 74%
<b>計画交通量</b>		30,300台/日		<b>供用済延長</b> 7.8 km
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.8	<b>総費用</b> (残事業)/事業全体 115億円/626億円 〔事業費：100億円/576億円〕 〔維持管理費：15億円/50億円〕	<b>総便益</b> (残事業)/事業全体 840億円/1,110億円 〔走行時間短縮便益：739億円/985億円〕 〔走行経費減少便益：80億円/100億円〕 〔交通事故減少便益：21億円/25億円〕	<b>基準年</b> 平成25年
	(残事業) 7.3			
<b>感度分析の結果</b> 【全体事業】交通量変動：B/C=1.6~2.0(交通量 ±10%) 事業費変動：B/C=1.7~1.8(事業費 ±10%) 事業期間変動：B/C=1.6~1.9(事業期間±20%) 【残事業】B/C=6.7~8.1(交通量 ±10%) B/C=6.7~8.0(事業費 ±10%) B/C=6.7~7.8(事業期間±20%)				
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保 前湯地区から第三種空港である花巻空港へのアクセスが向上（64分→61分） ・都市の再生 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとして盛岡南新都市土地区画整理事業と連携				
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ・岩手県知事の意見 1. 「対応方針（原案）」案に対して異議ありません。 2. 本県では、盛岡都市圏の交通を円滑化にし、都市機能を高める一般国道46号の整備促進を求めているところです。 「盛岡西バイパス」は、盛岡広域都市圏の渋滞緩和や新たな交通軸形成による新市街地発展に大きく寄与する重要な事業であることから、暫定2車線区間の4車線化について、早期完成を図っていただくとともに、盛岡西バイパス南進についても、早期事業化をお願いしたい。  ・以下の団体等から、盛岡西バイパスの整備促進について要望あり。 岩手県（知事）、盛岡市（市長）、矢巾町（町長）				
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。				
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。 ・平成25年度全線暫定開通				
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> ・事業進捗率74%（うち用地進捗率100%）				
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> ・事業の進捗に係る問題はない。				
<b>施設の構造や工法の変更等</b> ・通水断面の大きい円形側溝とすることで排水枘及び流末処理工の数を削減し、コスト削減を図った。				

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。